

70年の歴史から学び団結力を高めよう！

現業協議会は、5月27日(土)に千曲市 ホテル圓山荘西之館において第60回定期大会を開催しました。県下各地から22名(女性1名)の組合員が大会に参集しました。大会では冒頭に、森泉現業協議長から、「松本市現業労組と県職現業を比較し、互いに良い点を学び切磋琢磨していこう」と挨拶がありました。県職労本部から 杉本副中央執行委員長、県本部から県本部現業評議会 伊藤議長も駆けつけていただきました。来賓挨拶及び執行部による情勢報告の後、経過報告・運動方針提起があり、出席した代議員から質問や意見が出されました。執行部答弁の後、全ての議案は賛成多数で承認されました。



挨拶する杉本副委員長

《議長あいさつ要旨》



答弁する森泉議長

伊藤議長の出身単組である松本市現業職員労働組合は長野県では一番、全国でも屈指の活動をしている。その証拠として新規採用を勝ち取っている。現業に対する合理化攻撃が厳しい中で、なぜ新規採用を勝ち取れるのか。まずは当局との交渉力が強い。役員が優秀である。そして団結力がすごい。組合員一人ひとりが組合運動の大切さを理解して参加し、活動している。見習わなければならない。長野県職現業に目を転じてみると当局との交渉力では負けていない。役員もそこそこ優秀だ。しかし最後の団結力が弱い。県下各地に職場が散在しているせいもあるが、組合運動に対する理解と情熱がない。任用替を勝ち取って安心してしまい危

機感がない。このままでは残念ながら生き残れないと思う。

本日は第60回の記念すべき大会であり、県職現業組合が創立してから70年の記念すべき年である。現業70年の運動は差別解消闘争の歴史であり、県職運動の先頭となって、先駆けとなって闘った歴史であった。70年が経過し労働条件は改善されたが、現在の安寧は組合で勝ち取ったものだとことを忘れてしまった。松本市現業を見習い、生き残っていくか。このまま静かに滅びていくか。選択するのは組合員の皆様です。本大会での真摯な討論を期待し議長の挨拶といたします。ともに生き残りましょう。

《質疑・答弁要旨》



坂田代議員

【木曾支部・坂田代議員】 任用替で慣れない事務職になったせいでメンタル不調になり、休職している仲間がいると聞くが把握しているか、またその対策は。

【執行部答弁】 本人またはその周りから情報をもらった者については承知しているが、全員ではないと思う。任用替職員の取り扱いについては、丁寧な対応をするようにという通知を毎年度人事課に出させている。組合・当局双方に相談窓口を設けているので利用してほしい。また、情報があつたら早めに連絡してほしい。



細田代議員

【下伊那支部・細田代議員】 県職現業の少数職場の取り組みについて「業務の延長線上の新しい業務」とは具体的にどのようなことか。また、事務職に異動になった人が現場の仕事に戻るのは本人希望か。

【執行部答弁】 一例だが、三重県で大型シュレッダーによる廃棄業務やOA機器のメンテナンスをすべて現業職員で行っている。異動については本人希望もあるし、所属の判断もある。任用替職員だというだけで能力を低く見られる風潮が残っており、現業差別は無くなっていない。